

令和6年度第1回さいたま市青少年宇宙科学館運営委員会 議事録

1 開催日時

令和6年8月28日（水） 15時00分から16時30分

2 開催場所

青少年宇宙科学館 2階 団体抛室

3 出席者

【委員：7名】

- ① 大向 隆三委員長
- ② 鶴ヶ谷 柊子委員
- ③ 菅野 千香子委員
- ④ 佐久間 由記委員
- ⑤ 鈴木 伸嘉委員
- ⑥ 木村 良治委員
- ⑦ 豊田 由香委員

【事務局：4名】

- ① 佐野 公子（生涯学習部長）
- ② 小林 勉（青少年宇宙科学館長）
- ③ 林 竜矢（青少年宇宙科学館主任指導主事兼事業係長）
- ④ 松本 純也（青少年宇宙科学館管理係長）

4 欠席者

- ① 饗庭 加和委員
- ② 鈴木 真由美委員
- ③ 根岸 君和委員

5 議題

- (1) 令和6年度 事業計画について
- (2) 令和6年度 事業の進捗状況について
- (3) その他

・議事（１）令和６年度事業計画について

鈴木委員：プラネタリウムの座席修繕については一部か全部か

事務局：リクライニングできないものが１４席ほどあり、それらについて、リクライニングできるように修繕するものとなっています。

鈴木委員：宇宙劇場の方も座席が古いものとなっている。良い映写機が入っており、来館者も多いと聞いている。座席を早期に替えることも必要と感じている。ぜひ参考としてほしい

大向委員長：一般の展示物や実験機器はリニューアルする計画があるのか。

事務局：毎年、展示更新の予算を組んでいます。今年度の予算については、宇宙広場内のインタラクティブコンテンツを新しくして行こうと考えています。来年度については気象コーナーの展示物に不具合が出てきているので新しくして行きたいと考えています。サイエンスショーで使う実験器具等については、消耗品費の予算がついているので新しいものに替えています。

展示物については、休館日に保守点検が定期的に入っているのですが、その時に故障等を直しているところです。

大向委員長：何回か来ると展示物がわかってしまって、飽きられてしまうので、そうならないように、定期的に検討してもらいたい。

鈴木委員：ふるさと納税の対象事業として何か企画しても良いのではないかと考えている。さいたま市は、相当、他に持っていかれている状況となっている。それを考えると、こちらに予算が回ってくるとは考えづらい。宇宙劇場は事務所にカビが生えていて、とても職場環境悪いと感じている。さいたま市も含め自治体が予算を組むのが無理だと感じている。ふるさと納税の対象として、「ここはお金が稼げる場所なんだと。そのためには予算を付けても良い」という風にしないと、所管課が予算を付けないと思う。ふるさと納税の対象となるようなグッズや星を観る会などをふるさと納税の品目にして、外から呼ぶな

ど事業として行っていくのも考えても良いと思う。こういったことが修繕に繋がったり、新しいものの導入に繋がると思う。施設の運営費用を税金だけで行う時代ではないと思っている。今後、ふるさと納税として、お金を稼げて館の運営が回るような仕組みを作ったほうが良いと考えている。

事務局：ふるさと納税等については、今後、調べてまいりたい。

鈴木委員：令和6年度の事業計画の中で困っていることとか足りないことなどの問題点はありますか。私たちにできることがあれば、お話を聞かせて欲しい。事業計画を聞いていて、私たちにできることがあるのではないかと思っていた。今後何かあれば、連絡していただきたいと思っている。

事務局：ありがとうございます。今後何かあれば、ご連絡させていただきます。

菅野委員：事業計画その他の「さいたま市から体験の風起こそう運動」とは、どのようなものになりますか。

事務局：「さいたま市から体験の風起こそう運動」は、今年度、館岩少年自然の家との連携で8月の夜に星空を写真に撮る会を行いました。

菅野委員：対象は子供たちですか。

事務局：対象は、子供たちとその家族となります。

・議事（2）令和6年度事業の進捗状況について

鶴ヶ谷委員：多くの方に来館していただいているが、資料に記載してある館のスタッフでどのように運営しているのか聞かせてほしい。

事務局：館の職員は、シフトで動いているので、11人揃っているわけではないので、その日にいるメンバーでシフトを組みながら運営しているところです。入館者が多い時には、スタッフが声を掛け合って連携しながら対応しています。

館内の通常の事業は職員で対応していますが、教室事業等については、講師の先生に来ていただいて運営しています。

鈴木委員：花火のプラネタリウムの人気があると聞いているので、参考にしてほしい。

菅野委員：人気コンテンツがあると思うが、値段の違いはあるのか。

事務局：プラネタリウムの番組によって値段は異なっています。人気のあるものは高いものとなっています。1年間の番組数を考えながら組み合わせて、予算の範囲内で決めています。

菅野委員：人気が高いものだけを投影するのは難しいということか。

事務局：その通りです。

木村委員：「宇宙のまち さいたま」教育プロジェクトの中で、漫画会館との連携は今年から始まったものか。

事務局：今年、「宇宙のまち さいたま」記念フォーラムを開催するにあたり、漫画会館の企画展「宇宙兄弟展」の担当者と連絡を取り合った。その中で、科学館が「宇宙のまち さいたま」を発信しているため、連携して盛り上げて行けないかということで、今年、この企画展に合わせて一緒にコラボレーションすることになりました。

木村委員：施設利用者数は、入場者数プラスプラネタリウム利用者数のことか。

事務局：施設利用者数は、貸部屋の利用数になります。プラネタリウムの利用者は入っていません。

佐久間委員：日曜映画会について、子供だけが対象となっているのか。

事務局：こちらの事業は、令和5年度まで実施していた事業で、今年度はこの事業の来館者数が少なかったことから廃止しているところです。日曜映画会は、視聴覚ホールで子供が観られる作品をみんなで観るような会でした。

佐久間委員：事前に通知することではなく、日曜日の来館者に合わせた形で行っていたということでしょうか。

事務局：毎月1回程度で行っていましたが、チラシでお知らせし、来ていただいた方に自由に入っていただくような形で実施していました。

大向委員長：恐竜が人気であるということがわかりましたが、来館者が小学校低学年とか中学年とか高学年とかの属性は取っていないのか。

事務局：無料の館ですので、年代別の入場者数をカウントしていないため把握はできていませんが、来場した子供たちに説明を行っていたので、その時の様子から見ると小学生低学年前後の家族連れの方が多かったです。

大向委員長：中高生による科学館ボランティアについて、多くの中高生にご協力いただいているようですが、実際に物を使っているので安全面の配慮が重要になってくると思うが、参加していただいている中高生に対する科学館の事前の指導はどうなっているのか。

事務局：事前に参加申し込みをしていただいた後に説明を行っています。また、活動の内容はキットを説明しながら渡すとか、スライムの必要な材料をお客様に渡すなど、安全なものをやってもらっています。

大向委員長：大学で実験、実験教室、実習を考えると、いざという時の保険の対応はどうなっているのか。

事務局：館内のイベント等に関しては保険に入っているのですが、怪我等の際には対応できるようになっています。

大向委員長：展示事業のダンボール宇宙遊園地は、どういったものか。

事務局：ダンボールは繰り返し使え、再利用、リサイクルできるものですので、SDGsに合わせて「環境にやさしい素材」ということを合わせながら、ダンボールを使った宇宙迷路やすべり台等を展示する予定で考えています。

大向委員長：ダンボールはリサイクルで使われたり、ダンボールアートとして使われることがあるが、最近では地震等の影響で、ダンボールでできた簡易トイレが売っていたのを見ました。防災の観点からの展示があっても、おもしろいと思いました。ダンボールのベッドが避難所に整備されたり、ダンボールで間仕切りしてテントみたいな個別のスペースを作ることができたりして、ダンボールの素材の切り口からいろいろな使われ方が、今されてきているので、ダンボールのメーカーに相談したら、話が広がっていくと思いましたので、ご検討いただければと思いました。

・議事（3）その他

事務局：特にございません。

鈴木委員：前回も出ているが、駐車場問題。駐車場が狭いので何か対策をしないと行けないと考えているが、何か展望はありますか。館が建ってから同じ問題を抱えていると思うが、バスで来る人は少ないと思う。家族連れで、車で来ていると思う。何でうまく成り立っているかというところ、おそらく回転率が早いと思う。回転率が早いから、すぐ見て、すぐ帰ってしまう。駐車場問題は考えなければ行けないと思いました。館内の展示物を充実すれば、駐車場問題は絶対に抱えきれない問題になっていくので、先に考えていかないと難しいのかなと思いました。民間の駐車場の案内を事業主の承諾を得ていれば載せられると思います。公共交通機関を案内しても県内は車を利用するので、駐車場問題は真剣に考えなければ難しいと感じています。

事務局：駐車場の問題に関しては、考えていく必要があると認識はしています。

鈴木委員：駒場は使えないのか。

事務局：駒場競技場主催の行事があるときは、それに来る方々の駐車場になるので、科学館来場者の車で一杯になっているときは上手くいっていないことがあるので、今後考えてまいりたい。

佐久間委員：夏休みに小学生に来館していただいて楽しんでいただいたと思う

が、さいたま市は、自由研究をやってもやらなくとも良いと聞いている。他市では自由研究に力を入れているところもある。自由研究の中から選ばれたものを科学館に展示していた。子供たちが自主的に興味を持ってやる課題を提供していたのを見てきたので、宇宙科学館でも自由研究をするきっかけ作りとか、楽しんだものに対して中高生まで興味を持たせるなど、学校との関連があっても良いのではないかと思いました。

事務局：夏休みこども科学館まつりのワークショップやサイエンスショーで、自由研究につなげられるヒントを科学館から提供できればと思っています。

佐久間委員：科学館に来たら、「自由研究の何かができるよ」くらいのアプローチができれば良いと思う。

事務局：頂いた意見をヒントに来年度の夏休みこども科学館まつりに「自由研究のヒントがあるよ」などを前面に打ち出して、学校の宿題と関連付けていけるように考えてまいりたいと思います。

大向委員長：さいたま市の児童生徒の優秀な自由研究の発表を、ここで公開するのはいかがですか。

事務局：さいたま市の児童生徒の科学展は、こちらを会場に実施しています。コロナの前まではパネルにしたものを青少年ホールに展示していましたが、11月に展覧会に出していただいた優秀な作品を科学館の2階に展示して来館者に見て頂けるように計画しています。

豊田委員：コロナからパネル展示ができなくなり、アピールすることができなくなってしまいましたが、去年からは科学館と教育委員会の関係部署が連携して、パネル展示をして発表する機会を設けて、パネル展示でワークショップのようなことを行いました。今年も予定していますので子供たちからの発信の場は継続して行っているところです。

事務局：児童生徒発表会のさいたま市代表を決めるのもこちらを会場として行っています。

豊田委員：以前は、大きいパネルを夏休みに各学校から借りて貼っていたこともあったが、また、そういったところも必要かと思いました。

鈴木委員：駐車場の話は、この建物をどうするのか。行政の規定では50年耐震でコンクリートは建て直すと思う。50年を考えると、あと10年くらいあると思うが、この場所に建て直すのか、または、もっと便利な場所に建て直すのかによって全く変わってくると思う。来場者数を気にするのであれば駅前に持っていかなければならないし、子供たちの学習を考えるのであれば、バスが停められる郊外が良いと思う。駅前でいう事業を考えていくのか、郊外で行う事業を考えていくのかによって考え方が変わってくると思う。来館者数が一定の評価となる事業は、駅前にした方が良いということもあるが、子供達の学習を考えるのであれば、バスで出入りした方が良いので郊外の方が良いと思う。郊外にすると一般の来場者が来なくなり、プラネタリウムの活動が難しくなることもあると思うので、今から方向性を出した方が良いと思っている。今のところ事務局としては移転の話はあるのか。

事務局：市としての考え方を整理する必要はあると考えています。

鈴木委員：大きい建物だと場所を探すのが難しいと思う。今から考えた方が良いと思う。

大向委員長：事務局におかれましては、今回の意見を参考にさせていただいて、今後の運営に役立てていただければと思います。